

新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」 素案

新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」施策の方向性

基本目標

多様な力で稼ぎ、輝き、未来につなげる農業・農村づくり

ビジョンの4つの柱

柱1 人材の確保・育成

柱2 農業所得の向上

柱3 農村の持続的発展

柱4 能登の創造的復興

施 策 の 方 向 性

柱 1	(1) 多様な農業人材の確保・育成 ① 多様なルートからの新規就農者の確保・育成 ② 農業経営を支える多様な雇用労働力の確保 ③ 中山間地域等におけるスマート農業を活用した労力補完	(2) 円滑な経営の継承 ① 経営者の計画的な経営継承の推進 ② 園芸産地や集落営農組織の継承の推進
柱 2	(1) 農畜産物の高付加価値化や販路拡大による需要の創造 ① 百万石の極みを中心とした県産農畜産物のブランド力の強化 ② 農業者によるブランディングの取組促進 ③ 輸出を含めた新たな販路開拓 ④ 農業者と消費者の相互理解促進 (2) 新たな需要に応える農畜産物の生産拡大 ① 農地集積・集約や農地整備による生産基盤の強化 ② 米の超低コスト技術の確立・普及	③ 水田における園芸作物等の作付推進 ④ 高温対策など農畜産物の収益性の向上 ⑤ スマート農業の普及拡大による経営改善 ⑥ 家畜伝染病の防疫体制の強化 ⑦ 耕畜連携など循環型農業の推進 (3) 環境負荷低減と生産性向上の両立 ① 化学肥料・農薬低減や温室効果ガスの排出削減に向けた技術の開発・普及 ② 消費者への理解促進等による需要拡大
柱 3	(1) 農村コミュニティの維持・強化 ① 地域リーダーの確保・育成 ② 農家民宿の生業支援やボランティア参加促進等による関係人口の創出・拡大 ③ 集落組織の広域化等による共同管理体制の維持	(2) 里山里海地域の振興 ① 地域資源の活用等による生業づくり ② 世界農業遺産「能登の里山里海」の認定効果の最大化 ③ 鳥獣被害の防止とジビエの利活用 (3) 防災・減災に向けた農村の強靭化 ① 農業水利施設の機能強化
柱 4	(1) 地域が主体となった新たな「能登モデル」の創出 トキ放鳥を契機とした米のブランド化、スマート農業の推進による生産性の向上、新たな果物産地育成に向けた検討など	(2) 復旧・復興の加速化に向けた施策の総動員 多様な農業人材の確保・育成、農地・農業用施設の復旧・強靱化、生業の再建、農村コミュニティの再生 など

柱1 人材の確保・育成

- 他産業との競合の中、**多様なルートから多様な人材**を確保し育成する。
- 農業者の持続的発展や産地維持に向けた**円滑な経営継承を促し、営農継続を図る。**

・青字下線部分…今回のビジョンでの新規・拡充する取組

(1) 多様な農業人材の確保・育成

① 多様なルートからの新規就農者の確保・育成

- ・「いしかわ耕稼塾」による多様な人材の確保・育成、定着の促進
- ・ワンストップ相談窓口の設置、就農相談会やインターンシップの実施
- ・就農希望者と受入経営体とのマッチング
- ・いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)と連携した移住就農の促進
- ・女性の農業経営へのさらなる参画を促進

② 農業経営を支える多様な雇用労働力の確保

- ・新卒・外国人材・福祉人材・退職者等の多様な人材の活用
- ・雇用の確保・定着に向けたマネジメント力向上
- ・カイゼン手法の活用やGAP(農業生産工程管理)の実践による農作業安全の確保
- ・タイミー、デイワーク等のサービス活用によるスポットワーク人材の確保

③ 中山間地域等におけるスマート農業を活用した労力補完

- ・スマート農業技術を活用する人材の育成、導入促進、環境整備の推進
- ・中山間地域に対応したスマート農業技術の実証・普及
- ・地域の農業法人や次世代を担う中小規模農家による規模拡大推進、外部からの企業参入の促進



(2) 円滑な経営の継承

① 経営者の計画的な経営継承の推進

- ・円滑な経営継承に向けた研修等の実施
- ・離農予定の畜産農家の資産データベース化等によるマッチング促進

② 園芸産地や集落営農組織の継承の推進

- ・園芸産地の継承に向けた産地ぐるみでの受入体制の構築
- ・集落営農組織の合併や継承に向けた合意形成の促進



柱2 農業所得の向上

- 今後の農業従事者の急激な減少を見据え、担い手への集積・集約、**スマート農業**による作業の効率化や**高温対策**による品質向上等を通じて、生産量を確保する。
- 国内市場の縮小も見据え、**輸出を含めた販路開拓**の取り組みを強化する。
- 持続可能な農業の実現に向け、**環境負荷低減と生産性向上**に向けた農法への転換を図る。

(1) 農畜産物の高付加価値化や販路拡大による需要の創造

① 百万石の極みを中心とした県産農畜産物のブランド力の強化

- ・「百万石の極み」ブランドの価値浸透に向けた魅力発信
- ・「百万石の極み」ネクスト品目の育成や新たなブランド品種の開発
- ・飼養管理技術等の改善による畜産物の品質向上及びブランド力向上による競争力の強化
- ・知的財産(商標・地理的表示(G I)・品種登録)の適切な管理・活用



百万石の極み

② 農業者によるブランディングの取組促進

- ・県内外の飲食店・小売店等でのキャンペーンやバイヤーとの商談会開催による販売促進・販路開拓

③ 輸出を含めた新たな販路開拓

- ・県内外の飲食店・小売店等でのキャンペーンやバイヤーとの商談会開催による販売促進・販路開拓【再掲】
- ・米加工品を含めた新たな需要開拓による米の消費拡大



- ・輸出拡大に向けた海外でのプロモーションや商談会などの活用
- ・海外バイヤーを活用したマーケティング、現地での魅力発信や販路開拓
- ・小松空港国際線などのインバウンドを活用した魅力発信による輸出拡大
- ・新たな市場開拓に向けたテスト輸出による検証
- ・知的財産(商標・地理的表示(G I)・品種登録)の適切な管理・活用【再掲】

④ 農業者と消費者の相互理解促進

- ・県民への県産農畜産物のRRによる地産地消の促進
- ・健全な食生活の実践に向けた幼少期からの食育の推進
- ・農畜産物の適正な価格形成に向けた販売事業者・消費者への理解醸成
- ・肥料・農薬の適正使用やGAPの普及拡大、食品表示の適正化
- ・食の安全・安心に関する正しい情報の広報及び相談窓口機能の強化



柱2 農業所得の向上

(2) 新たな需要に応える農畜産物の生産拡大

① 農地集積・集約や農地整備による生産基盤の強化

- ・水田の排水性向上等、麦・大豆や園芸作物等の生産に適した農地整備
- ・営農の効率化や担い手の規模拡大に向けた農地の集約化・大区画化

② 米の超低コスト技術の確立・普及

- ・乾田直播や再生二期作などの低コスト技術の開発・実証
- ・多収性品種やスマート農業技術の活用促進



③ 水田における園芸作物等の作付推進

- ・水田の排水性向上等、麦・大豆や園芸作物等の生産に適した農地整備【再掲】

〈園芸作物〉

- ・産地形成・拡大に向けた生産・販売体制の整備
- ・目標単収の達成に向けたマンツーマン指導、新規地域への導入促進

〈麦・大豆〉

- ・麦や大豆栽培における排水対策や適切な栽培技術の普及
- ・石川県に適した小麦品種の選定、栽培技術の検討・実証

④ 高温対策など農畜産物の収益性の向上

〈高温対策〉

- ・夏の高温に強い良食味米の新品種の開発
- ・高温耐性・多収性の牧草品種への切り替え促進
- ・高温等気象災害の防災・減災技術や設備の導入促進

〈生産性向上〉

- ・「百万石の極み」を中心とした県産農畜産物の品質向上・生産拡大
- ・畜産における生産拡大に向けた施設・環境関連施設(堆肥舎、強制発酵装置、浄化槽、脱臭装置等)の整備、省力化機械の導入促進
- ・老朽化した共同利用施設の再編集約・合理化の推進



⑤ スマート農業の普及拡大による経営改善

- ・スマート農業のワンストップ窓口を通じた導入・定着の推進、経営課題に対応した農業者と企業・大学とのマッチング
- ・スマート農業技術を活用する人材の育成【再掲】
- ・スマート農業に適した農地の集約化・大区画化など環境整備の推進
- ・畜産の省力化機械の導入促進【再掲】



柱2 農業所得の向上

(2) 新たな需要に応える農畜産物の生産拡大

⑥ 家畜伝染病の防疫体制の強化

- ・飼養衛生管理基準の遵守による家畜伝染病の発生予防(防護柵の設置、動力噴霧器による消毒、石灰散布等)
- ・関係機関と連携した防疫訓練の実施や防疫資材の備蓄
- ・家畜の衛生指導を担う獣医師の確保・育成

⑦ 耕畜連携など循環型農業の推進

- ・堆肥の品質向上及び耕種農家とのマッチングの推進
- ・地域内の堆肥の効率的な利用・流通体制の検討
- ・飼料用米や稻発酵粗飼料、牧草などの生産・利用拡大の推進



(3) 環境負荷低減と生産性向上の両立

① 化学肥料・農薬低減や温室効果ガスの排出削減に向けた技術の開発・普及

- ・農業者の取組の認定による面積拡大、化学農薬等の使用を低減した栽培技術の実証・普及
- ・温室効果ガスを削減する栽培技術(中干し延長、秋耕、乾田直播など)の推進
- ・環境負荷低減に向けた「特定区域」や「オーガニックビレッジ宣言」の推進
- ・栽培法に適したカーボンクレジットや環境直接支払いの活用推進
- ・有機農業に取り組む農業者を講師とするなど技術指導体制の強化

② 消費者への理解促進等による需要拡大

- ・化学肥料・農薬や温室効果ガスの削減程度が分かる新たな統一ラベルの活用等による消費者への理解促進
- ・学校給食における化学農薬等の使用を低減した農産物の利用拡大や食育の実施



柱3 農村の持続的発展

- 農村コミュニティの核となる人材やボランティア等の**関係人口の確保**や、**複数集落で地域の活動を支え合う仕組みの構築**、農業用施設等の強靭化等の環境整備を通じて、**農村コミュニティの維持・強化**を図る。

(1) 農村コミュニティの維持・強化

① 地域リーダーの確保・育成

- ・集落をけん引する人材の育成
- ・二地域居住者や移住者などの外部人材の掘り起こし



② 農家民宿の生業支援やボランティア参加促進等による関係人口の創出・拡大

〈農家民宿〉

- ・農家民宿の「のとSDGsトレイル(仮称)」のビジターセンター化
- ・農家民宿を核に食を中心とした地域ならではの魅力を提供する「スローツーリズム」の推進
- ・事業承継等による新規開業者の伴走支援
- ・広域連携によるインバウンド需要に対応した長期滞在型旅行商品の造成

〈ボランティア〉

- ・農業ボランティアの参加促進及び里山環境の利用保全の推進

③ 集落組織の広域化等による共同管理体制の維持

〈体制整備〉

- ・地域が一体となった農村機能の保全活動の推進
- ・条件不利地域等における営農の継続に向けた共同管理作業や農作業を支援する人材と集落・担い手のマッチング促進
- ・市町単位など広域での共同管理作業の支援体制の整備促進
- ・複数集落で、農地の保全に加え、地域資源を活用した特産品開発や、高齢者世帯の見守り体制などの生活支援等を行う広域運営組織(農村RMO)の形成推進

〈省力化〉

- ・中山間地域に対応したスマート農業技術の実証・普及【再掲】



柱3 農村の持続的発展

(2) 里山里海地域の振興

① 地域資源の活用等による生業づくり

- ・里山ファンによる里山里海の地域資源を活用した新商品・新サービスの開発や「生業の担い手」の参入の促進
- ・トキとの共生を活かした地域活性化

② 世界農業遺産「能登の里山里海」の認定効果の最大化

- ・里山里海の地域資源の維持・保全に向けた取組の強化
- ・世界農業遺産の国内認定地域と連携した首都圏等での魅力発信
- ・能登の里山里海国際貢献研修プログラムの強化による国際交流の推進

③ 鳥獣被害の防止とジビエの利活用

- ・防護柵の設置や捕獲活動等による鳥獣被害防止の強化
- ・ジビエ料理フェアの開催など消費者のジビエに対する需要喚起

(3) 防災・減災に向けた農村の強靭化

① 農業水利施設の機能強化

- ・耐震対策など災害に強いため池の整備
- ・長寿命化や耐震対策など災害に強い農業水利施設の整備



柱4 能登の創造的復興

- **復旧・復興の加速化**に向け、あらゆる施策を総動員とともに、地域が主体となった**能登の復興モデルを創出し、横展開を図る。**

(1) 地域が主体となった新たな「能登モデル」の創出

○ トキ放鳥を契機とした米のブランド化

- ・トキの放鳥・定着に向けた生息環境整備の推進
- ・トキ放鳥を契機とした認証制度に基づく米づくりの拡大及び販路開拓の推進



○ 環境に優しい農畜産業の推進

- ・環境負荷低減に向けた「特定区域」や「オーガニックビレッジ宣言」の推進【再掲】
- ・栽培法に適したカーボンクレジットや環境直接支払いの活用推進【再掲】
- ・有機農業に取り組む農業者を講師とするなど技術指導体制の強化【再掲】
- ・ニーズに合った高品質な堆肥づくりの推進、堆肥散布体制の整備
- ・循環型農畜産業で生産された奥能登農畜産物のブランド価値の向上

○ 家畜排せつ物など未利用資源の地域内活用による循環型農畜産業の構築

- ・関係者で構成する推進協議会によるマッチング促進
- ・ニーズに合った高品質な堆肥づくりの推進、堆肥散布体制の整備【再掲】
- ・水田を活用した飼料生産の推進(稲WCS、牧草)
- ・循環型農畜産業で生産された奥能登農畜産物のブランド価値の向上【再掲】



○ スマート農業の推進による生産性の向上

- ・スマート農業技術を活用する人材育成・導入支援・実証普及の一体的な推進

○ 奥能登における新たな果物産地の育成に向けた検討

- ・既存産地の拡大や新たな品目の作付けを推進
- ・観光農園や地域内の直売所での販売等による農家所得の向上

○ 農家民宿の生業支援

- ・事業承継等による新規開業者の伴走支援【再掲】
- ・広域連携によるインバウンド需要に対応した長期滞在型旅行商品の造成【再掲】

柱4 能登の創造的復興

(2) 復旧・復興の加速化に向けた施策の総動員

○復旧・復興施策の推進体制の整備

- ・奥能登宮農復旧・復興センターによる伴走支援

○多様な農業人材の確保

- ・スマート農業技術を活用する人材の育成【再掲】
- ・地域の農業法人や次世代を担う中小規模農家による規模拡大、
外部からの企業参入の促進【再掲】
- ・タイミー、ディワーク等のサービス活用によるスポットワーク人材の確保【再掲】
- ・地域おこし協力隊や特定地域づくり事業協同組合の活用促進



○農地・農業用施設の復旧・強靭化

- ・農地・農業用施設の早期復旧
- ・復旧を契機とした区画拡大など生産性の高い農地整備の推進
- ・耐震対策など災害に強いため池の整備【再掲】
- ・長寿命化や耐震対策など災害に強い農業水利施設の整備【再掲】

○農村コミュニティの再生

- ・集落をけん引する地域リーダーの育成、二地域居住者や移住者などの
外部人材の掘り起こし【再掲】
- ・複数集落で、農地の保全に加え、買い物や移動などの生活支援等を一体的に
行う広域運営組織(農村RMO)の形成に向けたモデルづくり

○生業の再建

- ・中小農家等の集落ぐるみの営農再開に向けた取組推進
- ・大規模農家の新技術の導入等による生産性向上推進
- ・中山間地域に対応したスマート農業技術の実証・普及【再掲】
- ・ボランティアや農業専門人材の派遣
- ・地力増進作物等による耕作放棄地の発生防止・解消
- ・営農を再開する際の地代等のかかり増し経費の負担軽減
- ・農地復旧の直営施工による所得確保
- ・施設復旧に伴う家畜の再導入の促進
- ・農業用機械・施設等の修繕・再取得の推進
- ・畜舎の新設及び整備に係る基盤整備(整地)の推進
- ・能登産品の県内外での応援消費の促進



○家畜防災体制の強化

- ・有事の際の家畜用飲用水確保に向けた体制づくり

新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」主要目標及びKPI案

○ 成長戦略で設定した「主要目標」を達成するため、既存の「KPI」に加え、新たな「KPI」を追加

主 要 目 標			基 準 値 (R3年度)	現 状 (R5年度)	目 標 値 (R14年度)
農業産出額			480億円	521億円	600億円
食料自給率（県内）（生産額ベース）			43%	44%	55%
柱	KPI	成長戦略策定期 (R4年度)	現状 (R6年度)	目標値 (R14年度)	
1	(1) 新規就農者数	119人/年 (R2～R4年度の平均)	122人/年	150人/年	
	いしかわ耕稼塾の受講者数 (就農希望者向け)	28人/年 (R2～R4年度の平均)	30人/年	40人/年	
	多様なルートを活用し人材を確保する 経営体数	—	62経営体	180経営体	
	スマート農業技術活用促進法に基づく 計画認定数	—	2件 (R7)	30件(累計)	
	(2) 産地や集落営農組織の継承モデル数	—	14件	50件(累計)	
2	(1) 百万石の極み品目の販売額	71億円	87億円	120億円	
	農林水産分野の知的財産取得数	96件	127件	140件	
	農林水産物の輸出額	2.6億円	4.6億円	5億円	
	(2) 能登牛の出荷頭数	1,357頭	1,203頭	2,000頭	
	ほ場整備率	—	84%	87%	
(3)	水稻の超低コスト技術の普及面積	—	3,449ha	5,000ha	
	環境保全型農業取組面積	9,017ha	9,663ha	18,000ha	
	・青字部分…今回のビジョンで新たに追加するもの				
柱	KPI	成長戦略策定期 (R4年度)	現状 (R6年度)	目標値 (R14年度)	
3	(1) 地域リーダー育成数	—	—	30人	
	日本型直接支払制度を活用した農地 の割合	—	70% (R7)	73%	
	(2) 農家民宿の宿泊者数	12,051人	4,812人	20,000人	
	イノシシ農作物被害額	—	45百万円	30百万円	
	(3) 防災重点農業用ため池の改修整備数	—	591か所	660か所 (累計)	
4	(1) 水田での営農再開率（奥能登）	—	75%	100%	
	(2) 担い手への農地集積率	—	55%	65%	
	共同作業のスマート化取組件数 (奥能登)	—	—	100件	
	トキ認証米の認証面積	—	—	5,000ha	